

## 全国6地区で開催された主要大学説明会に参加

主要大学説明会が、9月24日（土）から10月29日（土）の間に、全国6地区（札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡）で開催され、本学は6地区すべてに参加しました。

この説明会は、東京大学の呼びかけにより、全国の国立・私立の主要大学が参加して開催されたもので、各地区とも500名前後の受験生・高校生等が集まり、終日活気にあふ



基調講演をする戸田山高等教育研究センター長

れていました。

いずれの地区でも基調講演、大学説明及び個別相談が行われ、仙台では、若尾理事（教育担当）が、東京では、戸田山高等教育研究センター長が基調講演を行いました。また、札幌、仙台及び東京では、入試課職員による各学部紹介や入学者選抜等の大学説明が行われ、受験生・高校生等は皆真剣に聞き入っていました。ブースでの個別相談では、熱心に質問やメモを取る参加者の姿が見られるなど、各地区とも好評のうちに終了しました。

## 地震防災訓練を実施

名古屋大学地震防災訓練が、10月12日（水）午前10時40分から12時00分（第2時限目の授業時間）に、東山地区、鶴舞地区、大幸地区、豊川地区、留学生会館及び国際喫煙館で実施されました。

この訓練は、職員、学生等の防災意識の高揚を図ることを目的に、平成15年度から実施されているもので、今回からは、10月第2水曜日の「国際防災の日」に実施されるこ



起震車による模擬体験

とになり、昨年に続き、勤務（講義）時間中に震度6弱の地震が発生したことを想定して情報伝達、安否確認、避難訓練や部局独自の訓練等が行われました。

当日は、午前10時37分に大地震が発生したことを想定し、平野総長から災害対策統括本部設置の指示が出され、訓練開始情報は、電話、FAX及び東山キャンパス内に設置した屋外防災無線装置で伝えられ、館内放送（日本語・英語）も利用されました。今年4月に整備された自然災害対策規程により、災害時の全学的な責任分担が明確化され、この責任分担が有効に機能するか否かの確認が今回の訓練の主目的とされましたが、全部局で、災害対策要員集合人数及び在室者の安否が確認され、その結果が本部に迅速に伝えられました。また、各部局では、独自に防災隊を立ち上げ、災害時の役割分担が確認されるとともに、部局独自の防災訓練も数多く行われました。災害対応要員以外の教職員、学生等は、防災教育の一環として、豊田講堂で行われた防災講演会、起震車による模擬体験、応急手当の体験、消火器の取扱訓練に参加しました。講演会では、総長、鈴木災害対策室長から防災に関する説明があり、約300名の参加者は熱心に聞いていました。